2016 年 10 月 26 日発行　会報 No.15

奈良東ロータリークラブ　会報

Nara East Rotary Weekly Bulletin

人類に奉仕するロータリー

2016-17 RI テーマ

通算 1229 回(本年度第 16 回)

10 月 26 日　本日のプログラム

卓　話

ミス奈良

上野貴穂様、沖原里奈様、中川友香梨様

本日のソング：我らの生業

“夢を語り、現在を刷新”

Review from the future and Renew

2016-17 地区スローガン

会　長	中村栄一	創　立	1990 年 9 月 12 日	事務局	〒630-8115
副会長	梶本真也	例会日	毎週水曜日　18:00～		奈良市大宮町 2-1-1-205
幹　事	谷口宗彦	例会場	ホテル日航奈良		TEL 0742-30-5511
会場監督	喜多永治		TEL 0742-35-8831		FAX 0742-30-5512

出席報告

10 月 5 日　第 1226 回修正	
会員数	37 人
出席免除者数	17 人
出席義務者数	31 人
欠席者数	8 人
出席者数	29 人
補填者数	1 人
修正出席者数	30 人
出席率	96.77%

ニコニコ報告

刀根荘兵衛ガバナー様、倉本堯慧ガバナー補佐様

山本等幹事長様、杉田博副幹事長様

中村栄一会長　刀根ガバナー様、地区役員の皆様、よろしくお願いいたします。

谷口宗彦君　刀根ガバナー、本日、ガバナーアドレスよろしくお願いします。

梶本真也君、喜多永治君、服部彰夫君、北山勘解由君、清水毅君、清水弘志君

黒田有紀君、川口勝久君、前田武君、泉谷良宏君、矢田武博君、小鍛冶英一君

前田隆一君、八尾俊宏君、西田正秀君、野崎充亮君、中東弘京君、伊東月臣君

刀根ガバナー、本日はよろしくお願いします。

幹事報告

・10月22日(土)に今年度IMが開催されます。八尾会員、岡島会員は午前10時から新会員セミナーから出席をお願いいたします。

　他の会員は午後1時から開会となりますので遅れずご参加をお願いいたします。

　午後2時からのパネルディスカッションでの倉本ガバナー補佐、服部会長エレクトの雄姿を全会員で見届けましょう！

例会報告

【ガバナーアドレス】

●国際ロータリー第 2650 地区　2016-17 年度

刀根荘兵衛ガバナー

みなさん、こんにちは。本年度ガバナーを拝命いたしております、敦賀 RC の刀根荘兵衛です。本日は公式訪問ということで、昨年 25 周年を迎えられた歴史と伝統があります奈良東 RC 様をご訪問させていただきました。本日このような大変素晴らしいクラブ様をご訪問させていただき、アドレスを申し上げる機会をいただきましたことを心から感謝を申し上げる次第です。

それではアドレスを申し上げたいと思います。最初に本年度 RI 会長ジョン・ジャーム氏のプロフィール、会長テーマについてご説明を申し上げます。

ジャーム会長は、1976 年アメリカテネシー州 CHATTANOOGA RC にご入会、本年でロータリー暦 40 年を迎え、ご年齢は 77 歳です。ジャーム会長は、青年時代は大変苦労が多かったと聞いております。ご両親が大学の授業料を払う余裕がなかったので職業訓練校に通った後、機械工場や大学の寮の食堂で働きながらノックスヴィルにあるテネシー州立大学に通ったそうです。大学卒業後、直ちにアメリカ空軍にご入隊されすぐに大尉までご昇進をされ、4 年後の軍役が終わってから、故郷にあるエンジニアリング会社に就職されました。そこで持ち前のバイタリティと素晴らしい才能を開花され、入社後たった 10 年で会社の会長兼 CEO になられたそうです。会社経営の他にも様々な社会的な活動にも携わっておられ、例えば大学に通うことのできない学生に奨学金を出すプログラムにも参加をされているそうです。ロータリー暦は RI 副会長、理事、財団管理委員、規定審議会議長など数多くの要職をご歴任になっておられます。特に、ポリオ撲滅のためのロータリー2 億ドルチャレンジの委員長として大活躍をされ、目標をはるかに上回る 2 億 2870 万ドルの募金を集められ、大変多くの実績をあげられました。ポリオに関しては、ジャーム会長のお父様がポリオの患者であり、大変強い思い入れのあるプログラムとなっているようです。今年一月の国際協議会の最終日の閉会本会議の中でジャーム会長が、涙で言葉を詰まらせながらご自身のポリオのエピソードをお話になりましたのが、大変印象深く残っております。

ジャーム会長が子供の頃、ジャーム会長のお父さんとお兄さんが二人で釣りに出かけられた時、お父さんが突然歩けなくなりました。お父さんは成人されてからポリオに感染されたのです。医者からは「もう二度とお父さんは立ち上がることができない」と宣告をされましたが、必死のリハビリの結果、なんとか足を引きずりながら歩けるようになられました。お父さんのポリオに打ち勝つのだと必死にリハビリをする姿に、ジャーム会長はポリオ撲滅を心に誓ったそうです。「そういった頑固なところがお父さん譲りなのだ」と話をされておりました。ジャーム会長は、ご自身のもっとも大切な価値観として「Integrity」という言葉を使っておられます。「Integrity」は日本語で「高潔性」と訳していますが、わかりやすく申し上げますと「誠実でぶれない」ということです。ジャーム会長夫人ジュディさんは「この「Integrity」という言葉は、誰も見ていないときに正しいことをすることなのだ」とおっしゃっております。つまり倫理的な原理原則がしっかりしていて、強いものから言われたと嘘をついたり、自分の利益になるからといっていい加減な嘘をつかないということだと思います。誠実で約束を守り抜く強い精神をお持ちのジャーム会長のリーダーシップに我々は大いに期待をしたいと考えております。

その素晴らしいジャーム会長の今年の RI 会長テーマは「Rotary Serving Humanity」日本語で「人類に奉仕するロータリー」です。この「Rotary Serving Humanity」という言葉は、大変シンプルな言葉ですが、ロータリーの本質を表す言葉だということでこのテーマを選ばれたそうです。ロータリーは創立当初からサービス、奉仕を目的としており、特にそれは一人に対する奉仕、人類に対する奉仕、つまりこれがロータリー運動の本質なのだということです。現在ロータリーは、110 年を経て常に変革を遂げながら時代の変化に対応し前進をしていますが、「ロータリアンをロータリアン足らしめる真髄は奉仕なのだ」とジャーム会長は強調されています。かつてポール・ハリスが「人生の最大の目的は人に奉仕することなのだ」と述べたそうです。このポール・ハリスのロータリーの奉仕に対する期待を継承し、人に対する奉仕を行っていく責務が

我々にはあるのだということでこのテーマが決められたということです。そしてこのテーマを達成するためには誠実性・多様性・寛容・友情・平和を信じ意欲と思いやりと知恵にあふれた人が必要であり、多様性のある人が皆入会して活動したいと感じるような柔軟性のあるクラブになってほしい。何よりも120万人の全世界のロータリアンが、ひとつのチーム、ロータリーチームとして一丸となりこのテーマを実践していただきたいと訴えられております。さらにこのテーマを実践するために、お一人お一人のロータリアンが毎日一回何かひとつよい事を行うことを心がけてほしいとジャーム会長は強調されています。たったこれだけのことかもしれませんが、私たちがロータリーにいる理由であり、私たちがなすべきことなのです。そして最善を尽くして人類に奉仕し、できる限り多くの人々の人生をよりよくすることが私たちの役割なのです、という事でこのテーマのスピーチを終わられました。

次にRI会長テーマに基づき、地区のスローガンをご説明します。ジャーム会長は「ロータリーの本質は人に対するサービス、奉仕なのだ」とおっしゃっています。私はこのロータリーの本質であるサービスをもう一度振り返り、奉仕の第二世紀を迎えた日本のロータリーが進むべき道を皆様と共に考えてみたいと思います。「ロータリーはもう曲がり角に来ている」「ロータリーはいったいどこに行くのか」こんな言葉が交わされるようになってから何年たったでしょうか。私たちはここ十数年、毎年同じような言葉を繰り返しているような気がいたします。しかしふと気がつくと、すでにその大きな曲がり角を通り過ぎたてしまったような気がいたします。かつてガバナーエレクトがガバナー教育を受ける国際協議会の入り口に大きく「ENTER TO LEARN, GO FORTH TO SERVE」「入りて学び、出て奉仕せよ」という言葉が掲示をされておりました。この言葉は1947-48年のRI会長ケンドリック・ガーンジーによって作られた言葉ですが、その年のレークプラシッドの国際協議会から会場に掲げられています。実はこの言葉はロータリー運動の基本を示す言葉だと考えています。現在、国際協議会では掲げられていませんが、私はこの「入りて学び、出て奉仕せよ」という言葉はロータリー運動の実体を実に見事に表した言葉だと考えております。世の中のあらゆる職業から選ばれた人たちが原則的に毎週開催される例会に集い、例会の場で事業経営のあり方を学び、友情を深め、自己研鑽を図り、その結果として奉仕の心が育まれていきます。そして例会で高められた奉仕の心をそれぞれの家庭、職場、地域社会にかえり奉仕活動を実践します。これが理想とされるロータリーライフです。かつて米山梅吉翁が「ロータリーの例会は人生の道場である」と語ったと言われておりますが、まさにこのことを示すのではないかと思います。また同じような意味で、かつてRIが、ロータリアンに“ロータリーとは何か”の認識を深めてもらうために、「ロータリー真の姿委員会」を設置し健闘を重ねたことがあります。その結果ロータリーの真の姿とは、「E・S・S」で表されるという結論に達したそうです。EはEnjoyのE。毎週の例会で地域の職業を代表する会員同士が信頼感を高めながら楽しむ。SはStudy。学ぶ、ロータリーから人生哲学、職業倫理を学び自己研鑽をし、人間性を高める。最後のSはService、奉仕すること。思いやりの心で人のお役に立つ行動を、というロータリーの奉仕をごく自然に自分の生活の中に活かし、世の為、人の為に尽くすということです。「E・S・S」がロータリーの真の姿でありロータリアンがお互いに磨きあい、楽しみ、学び、奉仕することが人間の真の満足を満たす道になるのだと思います。そしてこのように素晴らしい120万人の世界中のロータリアンの輪の結集が世界的な紛争予防になり、結果的に国際理解と親善・平和を推進することにつながるのではないかと考えております。ところで、元来ロータリーの奉仕理念は高度な哲学・宗教から出発したものではなく人間本来生まれながら心の奥に持っている目に見えない精神、何か人の役に立ちたいという心を発掘し、育んでいくことです。これがロータリーの生命力であり原点でもあるわけです。
1974-75年度RI会長ウィリアム・ロビンス氏は「ロータリーの第一の仕事は人をつくることなのだ」と述べております。ロビンス会長が初めて日本をご訪問された時にさらに詳しく次のように語っておられます。「RCの進化は、いかほどの金銭を集めたか、いかほどの計画を実践したかではなくそのクラブがいかなるロータリアンの人づくりをしたか、ということに尽きる。金品を社会に寄贈して奉仕するのはロータリーの本義ではない。奉仕する人を育成して社会に寄贈するのがロータリーである。」といっておられます。実に味わうべき一文ではないでしょうか。私たちは長年にわたり「超我の奉仕」と、「最もよく奉仕するものが最も多く報いられる」、この二つを公式標語としてロータリー精神の基本としてまいりました。このモットーは自分のことは後回しにして人のために役立つことをしようという人間の善意が実は自分の為にもなるということを示しています。このことを体験的に信じている世界中の人の集いがロータリーであり、「奉仕の理想」とはこのようなこ

とを指しているのではないでしょうか。ロータリーの素晴らしさはロータリーの例会にあります。20 世紀の奇跡といわれたロータリーを 21 世紀まで引き続いて発展させるには、ロータリーの最も重要なユニットである各 RC を充実させる以外になく、そのためには会員お一人お一人がロータリーこの素晴らしきものを知り体得することにあると考えています。私はこういったロータリーの基本精神は今日でも変わることがない、変えてはいけないものだと信じております。このような原点に立ち私たちはこれからあるべきロータリーの姿をもう一度見つめなおし、今を刷新、Renew する必要があるのではないでしょうか。もうすぐ 100 年を迎えようとする日本のロータリー、私たちはもう一度ロータリーのあるべき姿を思い描き、夢を語り、未来を見つめ、高い理想をそこに求め、そこから現在を創造する刷新する、Renew することが求められているのです。2016-17 年はロータリーの未来を皆様と共に考える一年にできればと思い、地区のスローガンを「“夢を語り、現在を刷新”来し方を顧み、行く先を見つめ、理想の未来を思い描き、今ここ(現在)を見直し、刷新しましょう―素晴らしい未来を創るために」とさせていただきました。

ところで、能の世界で大変有名な世阿弥が、晩年 60 歳を過ぎた頃に書いた著書に「花鏡」という本がございます。その中に大変有名な一節「初心忘るべからず」という言葉があります。世阿弥にとって初心とは、新しい事態に直面したときの対処方法、すなわち試練を乗り越えていく考え方を意味しております。人生試練の時にどうやってその試練を乗り越えたかという経験、初心を忘れるなということです。私はロータリー運動も初心を忘れてはならないと考えています。初心の「初」という字は、衣偏に刀と書きます。これは長年使った着物にはさみを入れて仕立て直しをすること、あるいはまたはさみを入れる勇気を示しているといわれています。たとえ今までどんな優秀な素晴らしい成功があったとしても、いつかそれは陳腐化するものです。それを変更し仕立て直しをする、昨日とは違う仕事、違うやり方をする必要があるという意味があるようです。ニーズにあったロータリーらしい奉仕活動は何か、素晴らしいロータリアンを育てるためにはどうあるべきか、ロータリー運動の根底にあるクラブの会員の友情・友愛を深めるためにはどうすればいいか、様々な変えるべき課題があるのではないでしょうか。基本理念をしっかりと持ちながら今日から常に新しい時代、歴史は今日から始まるのだという気持ちとバイタリティがなければこれからの変革の時代は生き延びていかれないのではないかと考えております。

最後に、ロータリーの本質、奉仕の本質を見事に語っているお話のご紹介をさせていただきまして、私のアドレスを終えさせていただきたいと思います。2660 地区戸田孝パストガバナーの著書から引用させていただきました。北陸でのお話です。若い夫婦に男の子が生まれ、まもなく高熱を出し精神薄弱になってしまいました。弟が生まれ二歳になって口が利けるようになると「兄ちゃんなんてばかじゃないか」といいます。母は弟を叱ろうと思いましたが、親がいなくなった時に弟にお兄ちゃんを面倒見てもらわなきゃならない。弟が小さい間にお兄ちゃんを労わる心を育ててやりたいと思いました。その日からお母さんは弟が兄に言った言葉を毎日ノートにつけ始めました。しかし一年たっても二年たっても弟の口から出るのは「おにいちゃんのばか」。母は諦めようと思いました。弟が幼稚園に入園して数ヶ月経った七夕の日、親戚や近所の子供たちがたくさん集まってきました。お兄ちゃんは多くの人に興奮したのか来た人をポンポンとぶちはじめました。しかし誰もがやめなさいとは言い出しません。その時、隣の部屋から弟がパッと飛んできて、お兄ちゃんの体にすがり「お兄ちゃん、ぶつなら僕をぶって。僕は痛いって言わないから」それはお母さんが長年待ち続けた言葉でした。その晩お母さんは、あふれる涙をおさえながらノートにありがとう、ありがとうと書きました。ありがとうしかなかったわけです。感動とは、こんなものではないでしょうか。弟が小学生になったちょうど入学式の日、先生は生徒の座席を次々と決めていきました。すると弟の隣に小児麻痺で左手が不自由な子が座っているではありませんか。お母さんは愕然としました。家ではお兄ちゃん、学校でも不自由な子の隣、何という不運な子なのか。家に帰って両親は引越しを真剣に考えました。最初の体育の時間、先生はこの不自由な子供がどうやって体操服に着替えるのか放っておきました。体育が始まり 30 分経ってようやく校庭に恥ずかしそうにその子は出てきました。次の体育の時間、先生が放っておいたのにこの不自由な子はみんなと一緒に並んでいます。先生はびっくりしました。どのようにして着替えたのか。次の体育の時間、先生は柱の影から教室の様子を見ていました。そこには驚くべき光景が見られました。前の時間が終わり、先生が出て行くとあの弟がまず全速力で自分の着替えを済ませ、隣の子の着替えを一生懸命に手伝い始めたのです。弟は半袖の体操服に不自由な手を通しています。母親でも難しい仕事です。ベルが鳴って二人は手をつないで校庭に向かって走っていきまし

た。先生は弟をほめてやろうと思いましたが、ほめると次からほめられるからやるのだということになり弟の美しい心は一偏に汚されてしまう。先生は弟に対する感謝の涙を我慢しながら体育を続けました。偶然にも七夕の日、初めて父母の会が開かれました。先生は教室に笹を飾り、短冊に子供達の願いを書かせ笹につけました。父母がそろった時に先生は生徒の短冊を一枚一枚読み上げていきました。「もっとおやつちょうだい」「もっとおこづかいちょうだい」「おもちゃかって」と読んでいった時、先生が思わず目を凝らしました。「神様となりの子の手をなおしてあげて」先生はこみ上げるものを必死にこらえましたが、こらえきれず体育の時間の話をしました。弟が手の不自由な子のために、一生懸命に体操服を着替えさせている感動の様子を伝えました。手の不自由な子のお母さんは廊下の外で教室の様子を聞いていましたが先生のお話を聞いて教室に飛び込み、床の上にべったり座り弟の首を抱いて涙を流しながら叫びました。「ありがとう。ありがとう。ありがとう。」その絶叫は学校中に響いたといいます。私はこの弟がたとえ成績が悪くても小さい頃からお兄ちゃんを思い、小学校では友達をいたわり、着替えを手伝う勇気を持つことで心の温かい素晴らしい人生を歩んでいけることと思います。そして時間をかけてこのやさしい労わりのある心を育んできたお母さんと先生、これが本当の教育ではないかと思います。単に教育のあり方を示しているのではなく人としての生きる道、思いやりの心を示しているように思えてなりません。現在私たちは物事を捉えるのに自分と他人、善と悪、過去と未来等二元論ばかりで見て参りました。自他の分離が、あの人のせいで私は不幸になった、私は正しいのにあの人は間違っている、過去にこんなことがあったから私の未来は不安に満ちている、こんな発想を生み私たちを苦しめて参りました。現在こういった二元論を超えた一元論の世界が求められているのではないでしょうか。今この瞬間自分は全ての人とつながっている喜びの感覚を多くの人たちが味わえる時代。目の前に展開される不幸に見える出来事にも意味を感じ感謝して乗り越えていける共生の世界。この一元的な発想こそ実はロータリーの奉仕の心そのものではないかと考えております。今一度私達はロータリーの奉仕の原点に立ち返り、これから私達のロータリーがどうあるべきか、どうありうるのかを考えてみる時期に来たのではないでしょうか。ロータリーにおける自己研鑽の効果が社会的に高い評価を受け、また行っている奉仕活動が正鵠を射たのであれば、自然と人は集まってまいります。要するにロータリーに魅力があればロータリーは自然に発展するものと考えております。皆様の RC が 21 世紀のロータリーの新しい夢に向かってさらに大きくご発展されますことを心からご祈念を申し上げまして、私のつたないアドレスを終えさせていただきます。

ご静聴ありがとうございました。

理事役員懇談会開催

公式訪問例会に先立ち、理事役員懇談会が開催されました。RI および地区の方針について述べられたあと、質問やアドバイスを含めざっくばらんに、かつ的確にご指導いただきました。

ご参加の理事役員の皆様、お疲れさまでした。

IM(インターシティーミーティング)開催

過日 10 月 22 日、ホテル日航奈良においてインターシティーミーティングが開催されました。ロータリーフォーラムでは倉本堯慧ガバナー補佐がディスカッションリーダーを務められ、クラブを代表して服部会長エレクトがパネリストとして登壇されました。

ご参加の会員の皆様、お疲れさまでした。